

# よなごびと

| 第20回 |

水中考古学者

やまふね こうたろう  
山船 晃太郎 さん

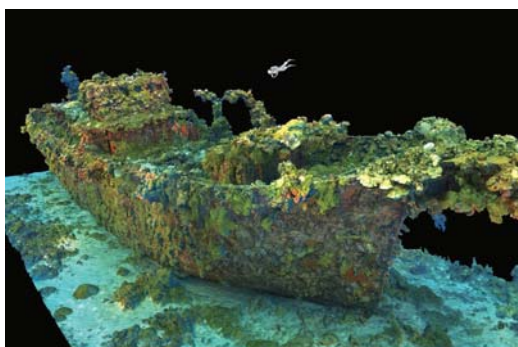
沈没船は昨日沈んだかのように

ミステリアスで魅かれます

水中考古学とは、沈没船などの水中に沈んだ遺跡を調査し、歴史を紐解く学問です。山船さんは水中考古学者として米子を拠点に世界中の海に潜ります。「海底で見つかるのは主に商船。船や積み荷を調べると、当時の交易や造船技術について知ることが出来ます。」水中は保存状態が良く、沈没船はまるで昨日沈んだかのように。山船さんはそんな沈没船に「ミステリアスで魅かれる」のだそうです。

山船さん。一念発起し、水中考古学において一番の権威であるアメリカの大学へ入学しました。「最初は英語も全く話せず、授業を理解するのがとにかく大変でした。でも、勉強が楽しかったから乗り越えられた」と10年間のアメリカ生活を振り返ります。

山船さんの将来の夢は、遺跡のデータを保存し、次の世代へ残すこと。「遺跡は火災や地震、盗掘者に破壊されることもある。しかし、遺跡の3Dデータを作って保存すれば、情報を後世に残すことができる」と遺跡を守る活動にも意欲をみせます。「でも、まだしばらくは研究に打ちこみたいですね。」古代と未来を行き来する山船さんの冒険はまだまだ続きます。



遺跡の3Dデータを後世に（ミクロネシア連邦チューク諸島に沈む旧日本軍の補給船）



水中の作業は活動時間が限られるため、効率求められる（クロアチアでの沈没船調査の様子）